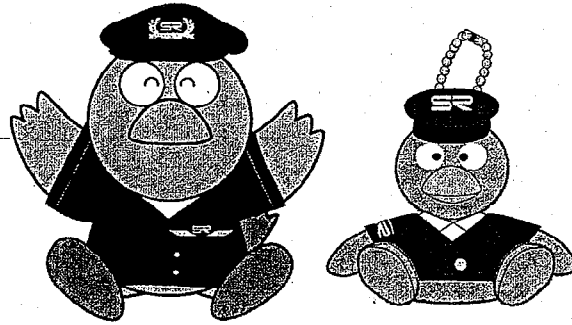


SR 埼玉高速鉄道

第4次中期経営計画 《22年度～24年度》



1. これまでの経緯

平成13年(2001年)に開業した当社は、予測を大きく下回る厳しいスタートとなりました。しかしながら、沿線開発等により輸送人員・運輸収入とも順調に増加し、過去3回の中期経営計画の目標は達成しています。

■ 過去の中期経営計画の状況

- 第1次中期経営計画《平成14年度～16年度》
平成15年度に基礎的収支の黒字化を達成しました。(10億2200万円の黒字)
*基礎的収支=(運輸収入+運輸雑収)-(人件費+経費+諸税)
- 第2次中期経営計画《平成17年度～19年度》
平成18年度に償却前損益の黒字化を1年前倒して達成しました。(2億700万円の黒字)
*償却前損益=当期損益(税引前)+減価償却費
- 第3次中期経営計画《平成19年度～21年度》
平成21年度に補助金を除く償却前損益の黒字化を達成しました。(2億8700万円の黒字)

2. 経営環境

当社を取り巻く環境は、沿線人口の増加、土地区画整理事業の進捗など当社への優位性もありますが、近年の経済状況の悪化や施設の経年劣化、依然として高いレベルの有利子負債を抱えるなど厳しい状況です。

○ 沿線人口の増加

当社沿線の人口は、毎年増加しており、今後も続くと予測されております。近年では、経済状況の悪化等により沿線人口の増加率は鈍化しているが、定期輸送人員は、安定的に増加しています。

○ 土地区画整理事業の進捗

当社沿線では、10ヶ所で土地区画整理事業が進行しています。その進捗状況は4割程度であり、今後も開発の余地があるが、一層の促進が必要です。

○ 施設の経年劣化

開業10年目を迎え、施設の経年劣化による故障の修繕費用の増加や安全輸送を確保するため、予防処置として、計画的な部品交換など経費の増加が予測されます。

○ 有利子負債の負担

有利子負債額は年々減少していますが、いまだに1,370億円を超える負債により、経営を圧迫しています。

第4次中期経営計画の策定



1. 計画目標

第4次中期経営計画(平成22年度から平成24年度)を策定します。

営業損益黒字(5年後)へのステップ



(1) 計画期間中の収支計画

計画期間中の収支計画は以下のとおりとしました。

(単位:百万円)

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
輸送人員 (人/日)	86,700	90,200	95,300
運輸収入	6,614	6,900	7,270
運輸雑収	1,745	1,760	1,775
人件費	1,722	1,712	1,702
経費	2,948	2,948	2,948
営業損益	▲1,697	▲1,364	▲965
当期損益	▲4,475	▲4,153	▲3,821



(2) 経営効率の指標

収支計画から導かれる経営の効率に関する指標は以下のとおりです。

➤ 収益効率の向上

○社員一人当たりの営業収益の向上

☆平成21年度 3,330万円/人 → 平成24年度 3,737万円/人

○一株あたりの当期純損失の軽減

☆平成21年度 ▲2,215.99円/株 → 平成24年度 ▲2,028.84円/株

➤ 経費効率の向上

○運輸収入に占める人件費の逓減

☆平成21年度 25.5% → 平成24年度23.4%

○営業費比率の逓減(営業費/営業収益)

☆平成21年度 1.23 → 平成24年度 1.10

2. 経営戦略

第4次中期経営計画の目標達成のための戦略を以下のとおり設定します。

◆ 安全確実な運行、適確なメンテナンス

安全を第一とした経営、体制の確立

◆ ホスピタリティの向上

快適にご利用いただくための、駅・電車内環境の保持と情報発信の充実

◆ 効果的な人材育成と活用

教育制度の改善と後継者の育成

◆ 増客・増収対策

既存事業の充実、さらなる施設活用及び沿線活性化への対応

◆ 経費削減の実行

適正コストの追求と生産性の向上

3. 行動計画(Action Plan)

経営戦略をもとに具体的な行動計画を以下のように定め、目標達成のために社員一丸となり取り組めます。

(1) 安全確実な運行、適確なメンテナンス

➤ 運輸安全マネジメントの推進

- ・ 経営トップ自らが、運輸の安全の確保に関する責務を継続
- ・ 安全確保に関するPDCAサイクルを機能させ、事故の未然防止を徹底
- ・ 安全管理体制に係る内部監査の手順等の確立と実施

➤ 施設整備

- ・ 開業10年経過したことによる経年劣化に対応するため、施設全般のメンテナンスの実施

(2) ホスピタリティの向上

➤ 快適な利用環境の提供

- ・ 快適な車内環境を提供するため、電車内の座席シートの交換
- ・ PASMOを活用したサービスの検討・実施
- ・ 駅係員をはじめとする接客サービスの改善
- ・ 四季の風物詩等の飾りつけによる、駅構内の賑わいづくり

➤ 沿線情報の発信

- ・ 沿線散策マップ作成による、沿線の魅力の発信
- ・ 沿線施設等のイベント情報の発信

(3) 効果的な人材育成と活用

- 研修カリキュラムの深化と研修の効果確認
 - ・ 階層別、職種別の効果的な研修の実施
 - ・ 研修効果確認の実施

- ベテラン社員指導によるOJTの内容・機会拡充
 - ・ 専門性の高い人材の確保
 - ・ 技術の伝承を進めるため、ベテラン社員によるOJTを積極的に実施

(4) 増客・増収対策

- 輸送人員の増加
 - ・ 定期外利用者の促進を目的とするキャンペーン等の検討と実施
 - ・ 沿線施設との連携を強化するとともに、沿線イベントのPRと参加
 - ・ 自社イベントの開催

- 運輸雑収の増加
 - ・ レッズ等と連携したオリジナルグッズの企画、販売の強化
 - ・ 広告媒体を多様化し、広告収入の増加
 - ・ 彩モール商品の拡充やネット広告の活用によるウェブマーケティングの推進

(5) 経費削減の実行

➤ 組織体制の見直し

- ・ 本社管理部門の業務体系を継続的に見直し、効率的かつ機動的な組織体制の確立
- ・ 安全・確実な運行体制を前提に、各部門の業務内容を精査し、適正な社員配置の追求

➤ 人件費の削減

- ・ 社員のプロパー化を推進し、プロパー社員比率の増加
- ・ 現行の給与体系を見直し、新たな給料表の作成

➤ 経費等の抑制

- ・ 備品、消耗品の購入方法の工夫や効果的な発注ロットによるコスト削減に努めるとともに、適正な使用、管理の徹底
- ・ 多客輸送時の配置要員、臨時ダイヤについて、状況に合わせた対応の検討、実施
- ・ 契約方式、業者選定方法を適正に運用し、適正コストの追求
- ・ PASMO利用を推進し、駅務機器の保守費用等の抑制
- ・ 手持ち資金を有効活用し、利息負担の軽減

おわりに

埼玉県及び沿線3市におかれましては、引続きご支援を頂くとともに、沿線開発の一層の促進をお願いいたします。

本計画については、『安全確実な輸送サービスの提供』を前提として、「増客・増収対策」「経費削減」に社員一丸となり取組み、沿線住民及びご利用のお客様に信頼される公共交通機関を目指してまいります。